

氏名： 松崎 毅 (MATSUZAKI Takeshi)  
所属： 人間文化創成科学研究科文化科学系  
職名： 准教授  
学位： 文学修士 (1985 東京都立大学)  
専門分野： イギリス文学、特に 17 世紀詩  
E-mail： matsuzaki.takeshi@ocha.ac.jp

#### ◆研究キーワード / Keywords

イギリス文学 / 17 世紀 / 詩 / イギリス内乱 / キリスト教  
British literature / seventeenth century / poetry / English Civil Wars / Christianity

#### ◆主要業績

総数 (5) 件

- ・『<男>と<女>のディスコース — シェイクスピアからドライデンまで』植月恵一郎編 1998 年 金星堂(共著)「抑圧と表象 — ヘンリー・ヴォーンにおける「時代」と「祈り」」pp.203-26.
- ・『博物誌の文化学 — 動物編』植月恵一郎編 2003 年 鷹書房弓プレス (共著)「川獺のゆくえ — 『釣魚大全』の寓意」pp.117-32.
- ・「イギリス内乱期王党派の唄・俗謡・連祷 — 言論統制と大衆煽動」『お茶の水女子大学人文科学紀要』第 57 巻 pp.177-88 2004 年 3 月
- ・「「私」の沈黙が語るもの — “The World” における「説教師」のペルソナ」『英文學研究』Vol.82, pp.1-13 日本英文學會 2005 年 12 月
- ・「王はそこに、されど汝ら王の御前には在らず」 — “The King’s Disguise” におけるチャールズ・スチュアートの不在」『お茶の水女子大学人文科学研究』第 5 巻 pp.69-80 2009 年 3 月

#### ◆研究内容 / Research Pursuits

17 世紀イギリス王党派の詩人・政治パンフレット作者であった John Cleveland に研究対象を絞り、彼が政治プロパガンダに用いた諸々の隠喩表象における表象と実体の乖離という問題を考察した。具体的には、代表作である “The King’s Disguise” において彼が擁護しようとしているものが、チャールズ・スチュアートという名の王そのものではなく、むしろ流通し再生産される王の「表象」であり、表象としての王を擁護することこそが「パンフレット戦争」における自らの使命であることをこの詩人が自覚していた可能性があることを明らかにした。

## ◆教育内容 / Educational Pursuits

コア英語科目は、近年の学部生の語彙力低下に歯止めをかけるため、単語テスト等を重点的に行うとともに、教育支援ソフト Moodle を使い、学生が自宅から音声教材にアクセスしてリスニングを行ったり、練習問題の解答やフィードバックを行えるような工夫を試みた。部分的に e-learning を採り入れたこのような授業形態は、今後も積極的に導入していきたい。

コア科目では、「基礎ゼミ」で、英語の詩をテキストに英語の音韻的な特徴を理解させるとともに、異文化の問題をより身近に感じさせるため、英語で書かれた詩についてできるだけ自由な討論を試みた。

専門科目では、「英文学史Ⅰ・Ⅱ」で古英語期から現代までの英文学の流れを論じ、大学院では、17世紀イギリス内乱期の政治詩をテキストに、表象行為の政治性という問題を論じた。

## ◆研究計画

近年の研究課題は、17世紀の詩と政治文学における隠蔽性という問題であるが、現在は、表象が実体（あるいはその不在）を隠蔽するさいに生じる権威という問題に最も強い関心を寄せている。

2008年度は表象行為と権威とのあいだのそのような関係について半ば意識的であったと思われる幾人かの王党派詩人に的を絞って研究したが、今後、王党派に限らず、政治的なアイデンティティーが曖昧とされている Andrew Marvell などの詩人、また Aphra Behn などの女性詩人も射程に含め、そのような隠蔽的言語の振る舞いをさらに具体的に検証していきたい。

## ◆メッセージ

外国語を学ぶことは、その言語の運用能力を高めるだけでなく、言語を通じてなされる人間の様々な文化的営為を通じ、人間や社会や芸術について理解を深めることでもあります。言葉そのものよりも、言葉の向こうに何が見えるかを常に探求する姿勢を持ってください。また、そのような学生さんが入学してくれることを願っています。